学校教育目標：たくましく　学びを紡ぐ　やなぎの子

令和６年２月１日発行
第８８７号

やなぎっ子

さいたま市立片柳小学校
ＴＥＬ　０４８－６８３－３１７４
ＦＡＸ　０４８－６８３－８９７１
https://katayanagi-e.saitama-city.ed.jp/
校　長　五十嵐　公　明

～　親の目・子どもの思い　～

２０２０年夏、新型コロナの影響で戦後初めて全国高校野球選手権大会が中止となり、球児たちの夢は奪われました。しかし、２０２３年１１月２９日、元球児たち（４５校、４２チーム）が阪神甲子園球場を借り切り、手作りの「甲子園大会」を４年越しで実現させた新聞記事を見かけました。その時、以前尊敬する先輩から聞いた素敵な話を思い出しましたので皆様にも紹介いたします。以前、大宮球場で野球の関東大会があり、先輩はスタッフとして案内係をしていたそうです。その時、息子さんの応援に来ていたある父親が、先輩の高校の時の同級生で、偶然ですが、久しぶりに再会したそうです。その時の、「ちょっといい話」です。

彼の息子が所属する野球部が関東大会に出場することになり、普段は仕事が忙しく、中学生の息子との関わりが薄かった彼も、息子が大喜びしていると思い、「今度、関東大会に出場だってな。すごいじゃないか。」と、声をかけました。すると、息子は、小さな声で「うん。」と言っただけだったので拍子抜けして、「ポジションはどこなんだ？」と続けて聞くと、ちょっと間を置いて、「球拾いさ。」と、ぼそっと言ったそうです。彼は、息子がレギュラーで活躍しているものと勝手に思い込んでいたので、つい、「何だ、補欠か。毎日遅くまで練習しているのに、３年生にもなって補欠なら、受験に備えて勉強に切り替えたらどうだ。」と、息子の気持ちを逆撫でするような言葉がつい口から出てしまいました。すると、息子は小さく「関係ねぇよ。」と吐き出すように言って、こわばった顔で自分の部屋に行ってしまったそうです。

数日して、彼は、電話台のわきに野球部員の家庭に送られる「野球通信」が置いてあるのに気づき、はっとしました。「背番号１１」という息子の書いた作文が載っていたからです。「野球通信」には、

「俺の背番号は１１。レギュラーではない。この間、『お前はどこのポジションをやっているのか』と父に聞かれた。父は野球のことにあまり関心がないと思っていた俺は、正直どきんとして、「球拾いだ。」と言ってしまった。かっこ悪い、照れくさい、それを隠そうと思っている自分がしゃくにさわって、つっぱるように言ってしまった。父は、『それなら引退して、受験勉強をしろ。』と言った。俺は一瞬考えてしまった。俺だって何回やめようと思ったかわからない。少年団の頃の仲間は、ほとんどレギュラーになっている。寂しい日も、自分が嫌になった日もあった。父の言葉が引っかかって、チームの関東大会出場が、かえって嫌になった・・・。でも、今は違う・・・。どこのチームにも１１番がいるからだ。１１番は１１番の役割があるからこそ、監督が１１番をくれたのだ。甲子園で優勝した帝京高校や横浜高校にも【背番号１１】がいたはずだ。チームの関東大会出場なんて、そうちょくちょくあるチャンスではない。俺は、いつでも出場できるように準備している。毎日のバットスイング３００回は、絶対欠かさない。体調を整え、馬力を蓄えていくため、残された夏の日々を練習で埋めていきたい。水汲みでもタオル出しでも、ナインのためにやるつもりだ。１１番は俺の中学時代の勲章だ。」

同級生は、「野球通信を読みながら、その文字がぼやけてきてしょうがなかった。」と言っていました。そして、その野球通信を手に持って、息子の応援に来ているのでした。背番号１１の息子は、真っ黒に日焼けした健康そのものの顔で、ベンチの中でチームメートの応援を懸命にしていたそうです。彼の息子さんは、部活で「人生」を勉強していたのでした。